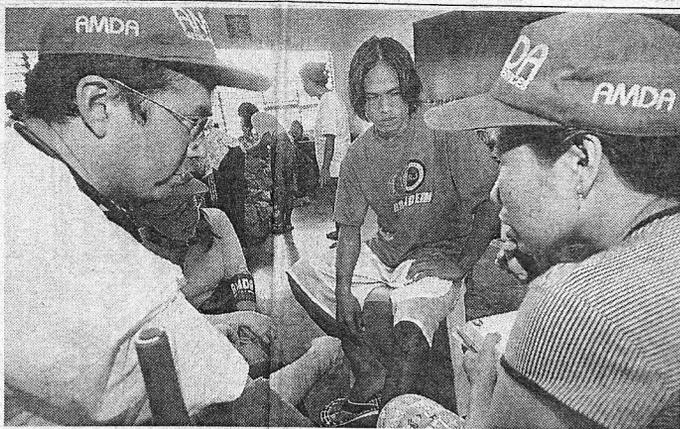


比地滑り

AMDA活動開始

精神的不調訴える人も

【ギンサウゴン(フィリピン中部レイテ島) 21日共同】フィリピン・レイテ島のギンサウゴン村



21日、フィリピン南レイテ州セントバーナード市の地滑り災害被災者避難所で、被災者(中央)を問診するAMDAの藪谷医師(左)(共同)

を襲った大規模地滑りは

二十一日、発生から五日目を迎え、感染症の流行への懸念が高まる中、米海兵隊やスペイン派遣の救援隊など各国の医療支援チームの活動が本格化。国際医療ボランティアAMDA(本部・岡山市榑津)も活動を始めた。避難所では、肉親を失った人々が恐怖を忘れられずに精神的な不調を訴えており、救援活動全体を統括する「指揮機能」の弱さにも懸念の声が出ている。

州当局などによると、同村周辺には七カ所の避難所が開設され、計千六百四十五人を収容。

現地の高校の教室では、AMDAが派遣した藪谷亨医師(三〇)静岡市出身が活動を開始。収容者から症状を聞き取り、フィリピン側の医療活動を支援する。

藪谷医師は「パキスタン大地震の現場にも行ったが、それに比べると負

傷者は少ない。手洗いやなどの不徹底でアメリバ性赤痢などの感染症が心配」と話し、「精神的なケア」が今後の課題と指摘した。

同教室にいた主婦ジョセフィン・タルドゥガンさん(三〇)は埋まってしまった小学校に通っていた五年生と三年生の息子二人が行方不明。「希望はまだ捨てていない。夫は現地で捜索活動に参加している」と言いながら、最後は「遺体でもいいから」と目を真っ赤にした。

国の地位は平等だが、実際には秩序固定化を狙う米国などの圧力により、一段階の「格上げ」すら困難。④に属しながら「二階級特進」を訴えるイランの主張は正論であつても、国際政治の現実には逆行している。

たはプルトニウム再処理を行い、原発を保有する非核国(日本など)③濃縮・再処理は行っていないが原発を保有する非核国(韓国など)④濃縮・再処理を行わず原発も持たない非核国に大別される。

条約上、①以外の非核